

# 注意報第 1 報

## (6月8日)

---

病害虫名 アザミウマ類

1 発生作物 いちじく

2 発生地域 羽曳野市

3 発生の状況

(1)羽曳野市のいちじく栽培ほ場に、青色粘着トラップを設置し、誘殺虫数を調査しているが、本年6月上旬の1日当たりのアザミウマ類の誘殺虫数が200頭を超えた。

その内、ヒラズハナアザミウマが約60%、ネギ、アザミウマが約30%であった。

(2)例年6月上旬に発生のピークを迎えるが、同時期の平年と比較して多く、被害が多発した年と同等であった。

(3)この時期がいちじくの果実の開口部が開く頃であり、果実内に侵入すると果実が腐敗するなど大きな被害になる恐れがある。

| 1日あたりの誘殺虫数 |      |      |      |
|------------|------|------|------|
| 年度         | 5月上旬 | 5月下旬 | 6月上旬 |
| 平成21年(本年)  | 5.5  | 4.3  | 203  |
| 平成20年(昨年)  | 4.4  | 50   | 40   |
| 平年         | 9.9  | 52   | 56   |

4 形態

(1)アザミウマ類のなかでも、いちじくを加害する主なアザミウマ類はヒラズハナアザミウマである。

(2)ヒラズハナアザミウマは成虫の体長1.0～1.7mmの微小な害虫である。

(3)いちじくの果実の開口部から果実内に侵入して加害するため、侵入後の

薬剤散布による防除は困難である。

## 5 防除対策

(1)発生時期に下記の薬剤を散布し果実内への侵入をふせぐ。

- ・ アディオン乳剤(2,000 倍、収穫前日、2 回以内)
- ・ スピノエース顆粒水和剤(5,000 倍、収穫前日、1 回)
- ・ モスピラン水溶剤(2,000 倍液、収穫前日、3 回以内)
- ・ オルトラン水和剤(2,000 倍液、収穫 45 日前まで、1 回)

(2)果実の開口部にガーゼなどを貼り付け、果実内への侵入を防止する。

(3)ほ場周辺に反射マルチを設置することで、被害を軽減できる。